

私のパソコン起源

瑞穂町社会福祉協議会職員 上田 勝 則



最近のひよんなことで、Excel操作の簡単な手引書を書くことがあり、そのまえがきに「…始めた動機は不純なものであるが、これの記述は、別の機会

にしたい」と書き述べた。「ふれあい」文集にはいささか不適當なテーマであるが、紙面を借りてその約束を果たすこととしたい。

平成十年、世の中はパソコンがかなり普及し、インターネットも一般化した頃であった。

家内が「我が家も、ワープロかパソコンぐらい有っても…」という。私は即座に賛同した。下心があったのである。

「インターネット利用の株売買で大儲け、定年後は株で生活」がそれである。

(少し余談) 昭和五十年代初期、BASIC言語の時代に米国製パソコンを購入したことがある。メモリーは16KBで現状標準機の一万分の一、それでも価格は周辺装置を含めて約四十万円もした。自家用車を売却し、やっとの思いで手に入れた。

当時作成したプログラムの内の自信作に「BASICによる多変量解析」があり、その使用説明原稿は今でも手元に残っている。

(話を戻す) 右の経緯はあるものの、Windowsが主流となっ

てのパソコンは全くの未経験。それでも「大儲け」のためにと、チャレンジすることにした。

私の目標は「負けない株、上田理論」の構築であった。「インターネットのデータを毎日ダウンロード、それを統計処理して売買合図をパソコンから出させる」という壮大な計画である。パソコンの一般操作、インターネットデータをExcelに直接読み込む技法、Excelの一般操作、Excelを自由に操縦するためExcelVBAプログラミング、それに株の常識など、独学で習得した。

およそ二年を要して、自分では「構築」した心算であった。ただ、「構築」が目的ではない「大儲け」が目的である。家内の許可を得た「限定額」を資本に実践に適用してみた。世の中株価低迷の時期にもかかわらず、その後二年間は「収支トントン」で推移、手数料で証券会社には大儲けさせた。「この低迷期に収支トントンなら立派なもの」と、「理論」を知人に自慢したりもした。

ところがである。平成十四年、投資していた会社が突然倒産、おもわぬ被害を被ることになった。私の「理論」は、売買の合図のみで、倒産を予知する最重要部分が欠落していたのだ。

平成十五年、株価は一転反騰を始めたが「薬に懲りて膽を吹く」ごとく、今は株に手を出す気は無い。

こんな不純な動機で始めたパソコンであるが、「大儲け」ならぬ大損に悔いはない。お陰で、人並みに使えるようになったのだ。

これが新たな「シルバー」人生で大いに役立ってくれている。